

「Chosun Online の記事は1週間で見れなくなりますので、以下のように引用させていただきます、ご紹介します」

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

<http://www.chosunonline.com/news/20091229000034>

原発輸出:UAE の次狙え、海外原発市場開拓で総力戦(下)

■原発付属設備、部品にも恩恵

原発技術を保有しながら、今回のプロジェクトに漏れた建設会社は、今後期待している。現在、新月城原発1号、2号機を建設している大宇建設は「最新の原子力技術分野の強みを生かし、中東はもちろん、欧州市場でも原発受注を拡大したい」としている。

LIG 投資証券は「コンソーシアムに含まれた企業以外にも、原発関連の付属設備、部品のメーカーも攻撃的に参入するのではないか」と指摘した。

現在、UAE の次に韓国が原発輸出を有望視しているのは、トルコ、ヨルダンだ。また、ベトナム、タイなど東南アジア諸国、ルーマニアなど東欧への輸出可能性も高い。米国は今後30基前後の原発を追加建設する計画で、中国は計画中の原発だけで90基に達する。インドは昨年時点で出力400万キロワット規模の原発を2032年までに6300万キロワットに拡大する計画で、50基以上の原発建設が見込まれている。

韓国政府は地域の特性を生かした「オーダーメイド型」の輸出戦略を立てる構えだ。米国、中国、インドなど巨大原発市場では、現地事業者や有力原発業者との戦略提携を通じ、市場を攻略する。また、原発市場が未成長のタイ、ベトナム、マレーシアなどでは、原子力関連の人材育成、インフラ構築を支援し、中長期的な市場にしていく。

海外の原発建設市場を先取りするため、官民の協議体も発足した。海外建設協会は原発関連の政府系企業、建設会社、研究機関などが参加する常設機関「海外原発建設協議会」を発足させ、22日に初会合を開いた。

金承範(キム・スンボム)記者、李錫雨(イ・ソクウ)記者

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版